

| | | | | | |
|------|-----------|-------|-----------------------------|-------|--|
| 対象年度 | H17 | 作成部課室 | 保健福祉部長寿社会政策課 | 関係部課室 | |
| 政策番号 | 3 - 7 - 3 | 政策名 | 男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成 | | |
| 施策番号 | 4 | 施策名 | 高齢者がいきいきと生活する社会づくり | | |

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】 判定不能
 ・指標名:高齢者のうち就業・社会活動している者の割合 達成度 ...
 ・高齢者人口は増加しており、社会参加活動を行う高齢者の割合も増加していると推測されるが、5年ごとの指標値であるため、施策の効果は不明である。

【県民満足度(政策)の推移から】 概ね有効
 ・政策満足度は50点で、60点以上の割合が41.2%であり、政策に対する施策の効果は概ね有効と考えられる。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】 有効
 ・高齢者の地域社会への参加に関する意識調査(H15内閣府)では「この1年間に、個人又は友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている何らかの活動に参加したことがあるか」との設問に「参加したものがある」が、H5:42.3%、H10:43.7%、H15:54.8%と年々増加しており、社会参加が進んでいる。

【総括】
 ・政策評価指標達成度からは、有効性の判定ができないが、政策満足度や内閣府の調査などからは、一定の効果が認められ、概ね有効と判定できる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

| 事業番号 | 種別 | 事業名 | 事業番号 | 種別 | 事業名 |
|------|----|----------------|------|----|-----|
| 1 | 主 | みやぎシニアカレッジ運営事業 | 6 | | |
| 2 | 主 | 明るい長寿社会づくり推進事業 | 7 | | |
| 3 | | | 8 | | |
| 4 | | | 9 | | |
| 5 | | | 10 | | |

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 概ね適切 課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】 適切
 ・(国)介護予防・地域支え合い事業などの支援サービスの提供
 ・(県)高齢者の生きがいと健康づくりのための各種事業を実施するために県・市町村及び民間で協力して設立した宮城県の「明るい長寿社会づくり推進機構」である(財)宮城いきいき財団(現(社福)宮城県社会福祉協議会)のほか、市町村、県老人クラブ連合会等を支援
 ・(市町村)基礎的な高齢者福祉サービスを市町村が提供
 ・(民間団体)社会参加、生きがいづくり、ボランティア、スポーツ、生涯学習、趣味など各種活動の実施
 ・長い高齢期を、どのように健康で生きがいを持って過ごすかは、大きな課題であり、スポーツ活動・生涯学習・文化活動の振興、ボランティアやコミュニティ活動の振興、雇用対策など、高齢者施策ではないが、関連が強い様々な施策・事業が国・県・市町村などにより広汎に行われている。
 ・この施策に係る事業群は、上記役割分担に沿って設定・実施されており、県の関与は適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】 適切
 ・県の2つの主要事業は、高齢者が行う様々な地域活動のリーダーとなる人材の養成、高齢者のスポーツや文化活動を通じて交流を深める場の提供など、元気高齢者の社会参加を促進する環境づくりのための象徴的な事業となっており、すべて施策目的を実現するために必要な事業である。
 ・今後、団塊世代の高齢化に対する長期的視野に立った取組が必要である。

【事業間で重複や矛盾がないか】 適切
 ・目的に応じ事業が適正に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。

【社会経済情勢に適切した事業か】 適切
 ・旧宮城いきいき財団(現県社協)では、定年を迎えたサラリーマンシニアの自主的組織の立ち上げ支援を行うなど、社会参加に関する元気高齢者の新しいニーズに対応したサービスを提供している。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 概ね適切
 ・今回はかい離度が大きく、今後の推移を見守る必要がある。

【総括】
 ・事業目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査から判断して、この事業の事業設定は適切と判断する。

| | | | |
|------|---|-----|--------------------|
| 施策番号 | 4 | 施策名 | 高齢者がいきいきと生活する社会づくり |
|------|---|-----|--------------------|

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

| | | |
|----|------|-----|
| 有効 | 概ね有効 | 課題有 |
|----|------|-----|

| |
|--|
| <p>【施策満足度から】概ね有効 ・施策満足度は、今回、50点になっている。満足度を高める事業は広汎で、県の事業だけではなくと考えており、県の取組みとしての限定した評価とすればやむを得ないが、一定の効果はあり、概ね有効と認められる。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】判定不能 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・平成13年度の現況値は、仮目標値を下回るものの、前回の測定値から1.8ポイント増加している。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効 ・内閣府の調査では、H5:42.3%、H10:43.7%、H15:54.8%と高齢者の社会参加活動は活発になっており、一層の施策の推進が必要である。</p> <p>【業績指標推移から】概ね有効 ・みやぎシニアカレッジ5校で、約400人の元気シニアが年間22日間の日程で学んでいる。全国各地で持ち回りで開催されるねんりんピックについて、平成17年度には1,376人の高齢者が参加している。</p> <p>【成果指標推移から】有効 ・ねんりんピックの予選会等を含めると平成17年度の参加者は約1,500人に達し、底辺の広い参加となっている。</p> <p>【総括】 ・政策評価指標からは判定不能であるが、施策満足度、社会経済情勢、業績指標、成果指標では、一定の施策の効果が認められることから、事業群は「概ね有効」と判定する。</p> |
|--|

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

| | | |
|-----|-------|-----|
| 効率的 | 概ね効率的 | 課題有 |
|-----|-------|-----|

| |
|--|
| <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】判定不能 ・指標値が判定不能であるため、相関についても判定不能。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的 ・高齢者の社会参加はH5:42.3%、H10:43.7%、H15:54.8%と増加しており、業績指標・成果指標の推移と正の相関があることから、効率的と判定する。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的 ・いきいき学園5校の講座開催日数が変わらない一方で、運営費が増加したことから若干効率性が下がった。 ・明るい長寿社会づくり推進事業費が増加したのは、ねんりんピックの開催地が、平成16年度の群馬県から平成17年度の福岡県に変わったことなどによるが、事業は概ね効率的に実施されている。</p> <p>【総括】 ・政策評価指標が判定不能であるが、業績指標、成果指標では、施策の目指す方向に進んでいると判断できるので、事業群は、概ね効率的に実施していると判定できる。</p> |
|--|

B 施策評価(総括):規則 § 6

| | | |
|----|------|-----|
| 適切 | 概ね適切 | 課題有 |
|----|------|-----|

| |
|--|
| <p>B-1・事業目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査から判断して、この事業の事業設定は適切と判断する。 B-2・政策評価指標からは判定不能であるが、施策満足度、社会経済情勢、業績指標、成果指標では、一定の施策の効果が認められることから、事業群は「概ね有効」と判定する。 B-3・政策評価指標が判定不能であるが、業績指標、成果指標では、施策の目指す方向に進んでいると判断できるので、事業群は、概ね効率的に実施していると判定できる。</p> <p>・事業群の設定は適切、有効性は概ね有効、効率性は概ね効率的であり、全体としては概ね適切と判断できる。</p> |
|--|

政策整理番号 24

事業分析カード(業績)

| | | | | | |
|------|-----------|-------|-----------------------------|-------|--|
| 対象年度 | H17 | 作成部課室 | 保健福祉部長寿社会政策課 | 関係部課室 | |
| 政策番号 | 3 - 7 - 3 | 政策名 | 男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成 | | |
| 施策番号 | 4 | 施策名 | 高齢者がいきいきと生活する社会づくり | | |

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果

| 事業番号 | 事業名 【担当課室名】 | H17 事業費 (千円) | 事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に) | 事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に) | 業績指標名 (事業の活動量、「事業の手段」に対応) | H15 | H16 | H17 |
|------|---------------------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|---------|---------|
| | | | | | | 事業費(千円) | | |
| | | | | | | 効率性指標(3.5E-02は 3.5×10^{-2}) | | |
| 1 | みやぎシニアカレッジ 運営事業 【長寿社会政策課】 | 39,325 | 高齢者 | みやぎシニアカレッジ(高齢者大学: 宮城いきいき学園)の開講, 運営 | 講座の開催日数 | 22 | 22 | 22 |
| | | | | | | 31,240 | 29,372 | 39,325 |
| | | | | | | 7.0E-04 | 7.5E-04 | 5.6E-04 |
| 2 | 明るい長寿社会づくり 推進事業 【長寿社会政策課】 | 61,916 | 高齢者 | 高齢者の社会活動促進事業に対し て支援 | ねんりんピック予選会等参 加者数 | 1,284 | 1,493 | 1,376 |
| | | | | | | 64,916 | 61,010 | 62,441 |
| | | | | | | 2.0E-02 | 2.4E-02 | 2.2E-02 |
| 3 | [] | | | | | | | |
| 4 | [] | | | | | | | |
| 5 | [] | | | | | | | |
| 6 | [] | | | | | | | |
| 7 | [] | | | | | | | |
| 8 | [] | | | | | | | |
| 9 | [] | | | | | | | |
| 10 | [] | | | | | | | |
| | [] | | | | | | | |
| | [] | | | | | | | |
| | 事業費合計 | 101,241 | | | | | | |

| | | | | | |
|------|-----|-------|--------------|-------|--|
| 対象年度 | H17 | 作成部課室 | 保健福祉部長寿社会政策課 | 関係部課室 | |
|------|-----|-------|--------------|-------|--|

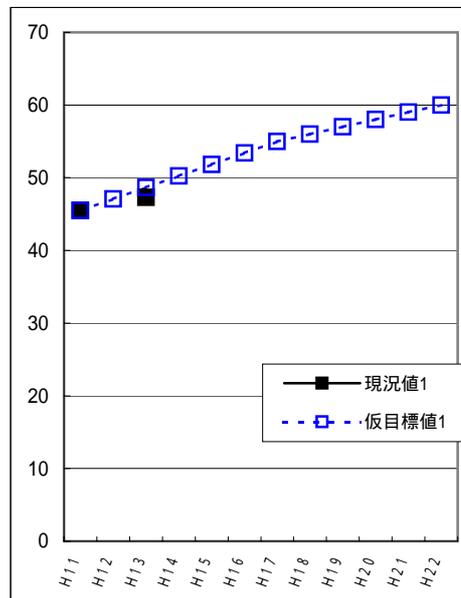
| | | | |
|------|-----------|-----|-----------------------------|
| 政策番号 | 3 - 7 - 3 | 政策名 | 男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成 |
|------|-----------|-----|-----------------------------|

| | | | |
|------|---|-----|--------------------|
| 施策番号 | 4 | 施策名 | 高齢者がいきいきと生活する社会づくり |
|------|---|-----|--------------------|

(1) 政策評価指標の推移

| 政策評価指標名 | | 単位 | | | | | | |
|-----------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 高齢者のうち就業・社会活動している者の割合 | | % | | | | | | |
| 目標値 | 難易度 | H17 | 55 | | | | | |
| | | H22 | 60 | | | | | |
| 評価年 | 初期値 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 |
| 測定年 | H8 | | | | H13 | - | - | - |
| 現況値 (達成度判定値) | 45.5 | | | | 47.3 | - | - | - |
| 仮目標値 | | 45.5 | 47.1 | 48.6 | 50.2 | 51.8 | 53.4 | 55.0 |
| 達成度 | | ... | ... | ... | B | ... | ... | ... |

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・高齢者が、仕事に従事したり、社会参加活動を行うことによりいきいきとした健康的な生活を送っている社会を象徴的に示す指標として選定した。
 ・2010年には65歳以上人口が全人口に占める割合が22.5%(注)になると推計され、高齢者の就業環境の整備や社会活動に積極的に参加できる環境整備が求められている。

(3) 施策満足度の推移

| 年度 | H17 | 参考:第2~4回の推移 | H16 | H15 | H14 |
|-------------------|------|----------------|------|------|------|
| 施策重視度(中央値、点)A | 80 | 施策重視度 A | 75 | 70 | 79 |
| 施策満足度(中央値、点)B | 50 | 施策満足度 B | 60 | 58 | 55 |
| かい離 A-B | 30 | かい離 A-B | 15 | 12 | 24 |
| 満足度60点以上の回答者割合(%) | 42.9 | 満足度60点以上の回答者割合 | 52.4 | 48.2 | 45.6 |

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度:・・・
 ・平成13年度の現況値は、仮目標を下回るものの、前回の測定値から1.8ポイント増加している。
 ・就業と社会活動の内訳について、平成8年度の調査では、就業が約29%、社会活動が約16%であったが、平成13年調査では、就業が26%に減少した一方、社会活動が約21%に増加した。
 ・企業等の求人状況からみて高齢者の就業環境の大幅な改善はあまり見込めないが、今後、団塊世代の高齢化など65歳以上の高齢者人口の伸びとともに生きがい、健康づくりなどの意義・必要性の理解は浸透してきていると考えられ、社会活動への参加は増加すると思われる。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
 ・この指標は、高齢者が元気でいきいきとした生活を送っていることを象徴する概括的なものとして、特に就業と社会活動に着目して設定したものである。
 ・これからの高齢社会においては、高齢者が、地域社会の一員として仲間づくりや社会貢献などで積極的に社会に参加し、これまで培った知識や技能を生かして働き、学習やスポーツに親しみ、生きがいのある人生を送ることが重要であり、そうした社会の達成度を推測できる指標である。
 ・データが5年ごとにしか得られない総務省の資料によるという問題はあがあるが、施策の方向性等を確認し、評価するにはおおむね妥当な指標と考えられる。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 24

| | | | | | |
|------|-----------|-------|-----------------------------|-------|--|
| 対象年度 | H17 | 作成部課室 | 保健福祉部長寿社会政策課 | 関係部課室 | |
| 政策番号 | 3 - 7 - 3 | 政策名 | 男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成 | | |
| 施策番号 | 4 | 施策名 | 高齢者がいきいきと生活する社会づくり | | |

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

[政策評価] 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性
 ・政策評価目標の目標値を達成するため, 取組みを強化する必要がある。

[施策評価] 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性
 ・10年先の高齢社会を見据え, 団塊世代など元気シニアを対象とした取組を強化する必要があるため, 平成17年度から「元気シニアのいきいき生活応援プロジェクト」をスタートした。団塊世代向けの核となる事業化やシニアカレッジアカデミー等の拡充を推進する。

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 方向性 | 拡充 | 維持 | 縮小 |
|-----|----|----|----|

[方向性の理由]
 ・10年先の高齢社会を見据え, 団塊世代など元気シニアを対象とした取組を強化する必要がある。

[次年度の方向性]
 ・平成17年度から「元気シニアのいきいき生活応援プロジェクト」をスタートしているが, 団塊世代向けの核となる事業化やシニアカレッジアカデミー等の施策に継続的に取り組む必要がある。

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

| 事業番号 | 種別 | 事業名 | H17決算見込額(千円) | 方向性 | 方向性に関する説明 |
|------|----|----------------|--------------|-----|--|
| 1 | 主 | みやぎシニアカレッジ運営事業 | 39,325 | 維持 | ・高齢者の就業や社会活動には, 県民や事業者に対する意識啓発, 情報提供とともに, 活動の中心となるリーダーの養成がますます重要であり, 重点事業として取組を強化する必要がある。 |
| 2 | 主 | 明るい長寿社会づくり推進事業 | 61,916 | 維持 | ・元気高齢者に対する生きがい・健康づくりを総合的に実施している唯一のシンボリックな事業であり, 継続的に行うことが重要である。また, 特に団塊世代に対しては, 重点事業として取組を強化する必要がある。 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| | | 合計 | 101,241 | | |